

心の育ちをめぐる課題

—主として校内生活のあり方を中心として—

公立中元校長 久保 哲哉

すばらしい教育活動を計画してもよって立つ基礎基本がぐらついていては、砂上の楼閣に等しい。学校生活のあるべき姿を追究することは、極めて重要な教育課題と考えます。

授業は教師のいのちと言われていました。同感です。“どう教えるか”の授業研究は大切な視点ですが、子どもの学校生活がくずれかけているのは、授業は勿論、教育諸活動は、十分その目的を達成することはできない。

その条件整備つまり学級や学校のあり方、土台づくりが急務と考える。このテーマについて、私達の実践例を中心に考えてみたい。

“いじめにより自殺した7人の中学生”との見出しで、いじめが初めてマスコミに登場したのは、昭和60年、23年前です。

子どもが自殺をする、生徒がいじめられて自殺をする—当時の私達教師には全く予想せぬことでした。

全国的に北九州でも徹底した研修、防止策を考え実践をしています。私達星陵中では、校内実践は勿論、道徳教育の延長線上に位置づけ、生徒保護者先生方が協同してカレンダーを作成。いじめ撲滅の標語や年間行事予定、学年・全校行事、学校環境写真など特色のあるカレンダー。

当時の小野元之教育長は、星ヶ丘カレンダーを文部省に持参しています。特色のある学校づくりを提唱していたからですが、大変感謝されています。当時の市教委は市庁舎の14階にあり、全フロアーに各部が入っていましたが、すべての部にこのカレンダーを掲示しています。

人的物的教育環境づくり、整然とした学校生活、その営みがいじめを許さない、いじめ撲滅の必須条件と考え、しかもその営みが、生徒の学力体力特性を伸ばす教育のあり方に連動する、と考えての実践です。

このカレンダーを契機として、PTAのお母さん方はNHKや新聞社のインタビューに応じています。

本校の先生は、環境教育全国大会で発表、全体講師の森隆夫先生(お茶の水女子大) が

絶賛してくれたそうです。

私はその翌年、全九州中学校校長研鹿兒島大会で提案をしています。その提案内容について簡単に説明しておきます。

日本の伝統的な教育概念、教育手法は2点あります。

その1点は、生徒指導です。キーワードは自己実現。子ども一人ひとりの健やかな成長を阻む要因を除去する営み—なんか、そんなことか、との声が聞こえそうですが、崇高な理念です。最近特に稀薄になっているようです。残念なことです。

もう1点は“学校文化”と呼ばれる教育概念、その中心課題は、自治能力の育成です。自分たちの学校生活を守る力、育てる力、そして学校生活を豊かにし、創造する力を育てることです。

授業態度の乱れを克服し、規律を守っていく態度そして文化やスポーツの活力を創造し、自分たちの学級・学校を楽しく、学びがいのある場にしようとする力、態度。その育成こそが学校生活の基盤になります。

具体的には●学級や学校は学習の場としてふさわしく整美されているか●チャイムと共に動いているか●係活動は機能しているか●話を聞く態度は育っているか●みんなで掃除をする豊かな心は育っているか等々は、学校生活の土台です。この教育についての考え方を日本の教育文化と言うそうです。若年教師のころ、研究者から伝授された文言です。

この再生こそ緊急の教育課題と考えます。そしてこのテーマを教師個人の問題とするのではなく、生徒指導の理念・道徳・特別活動の視点を踏まえ、生徒指導体制の確立という観点から全校的な研修・実践が必要です。

この全九州校長研、私が発表した2編の資料を配布して欲しい旨の要望が大会事務局にあったそうで、参加者全員に配布しています。その2編を紹介します。

なぜ怒らぬか 顔をまっかにして

千葉県松戸市フリージャーナリスト 42 歳

学校のいじめ対策はなまぬるく、親としては、はがゆい思いをしている。

“いじめという行為を強く憎み、きびしく軽蔑する心” がなければ、効果は期待できない。

私達大人は、いじめという卑劣極まりない行為に対して、怒りと軽蔑と嫌悪感をあらわにしているか。

多勢に無勢にかかるなんて小心者のすること。

無抵抗の相手をいじめるなんて人間のくず。

弱い者を攻撃するなんてヘドがでる。

先生達は、なぜ顔をまっかにして、机を叩いて 怒りをあらわにしないのか。
「先生は、私は人間として いじめは大嫌いです」と大声でどなって下さい。
大人達の価値観は、このようにして世代を超えて受け継がれていく。
先生達の皆さん いじめ心をシャットアウトする学級を、是非是非作って下さい。
強く 強く 希望します。

学級崩壊

北九州市立 星陵中学校校長 久保 哲哉

生徒と教師の信頼の絆が断ち切れ、クラスの中で正しいことが正しいこととして通用しなければ、最早 学級は存在しない。学級崩壊である。

学級崩壊は、いじめ 器物損壊 そして 校内暴力などの不祥事が顔をだす。

私はこの教育改革会議で、家庭生活の習慣化の重要性を訴えてきました。学校や地域の温度差はありますが、総じて家庭の教育力の著しい低下により、教育は一層困難になっています。従って、不可避のテーマです。その家庭生活の習慣化の実践と平行してこの学校生活のリズムづくりの実践がなされると、その効果は倍加します。

どちらも市教委の積極的な支援・指導・助言が必要と考えます。